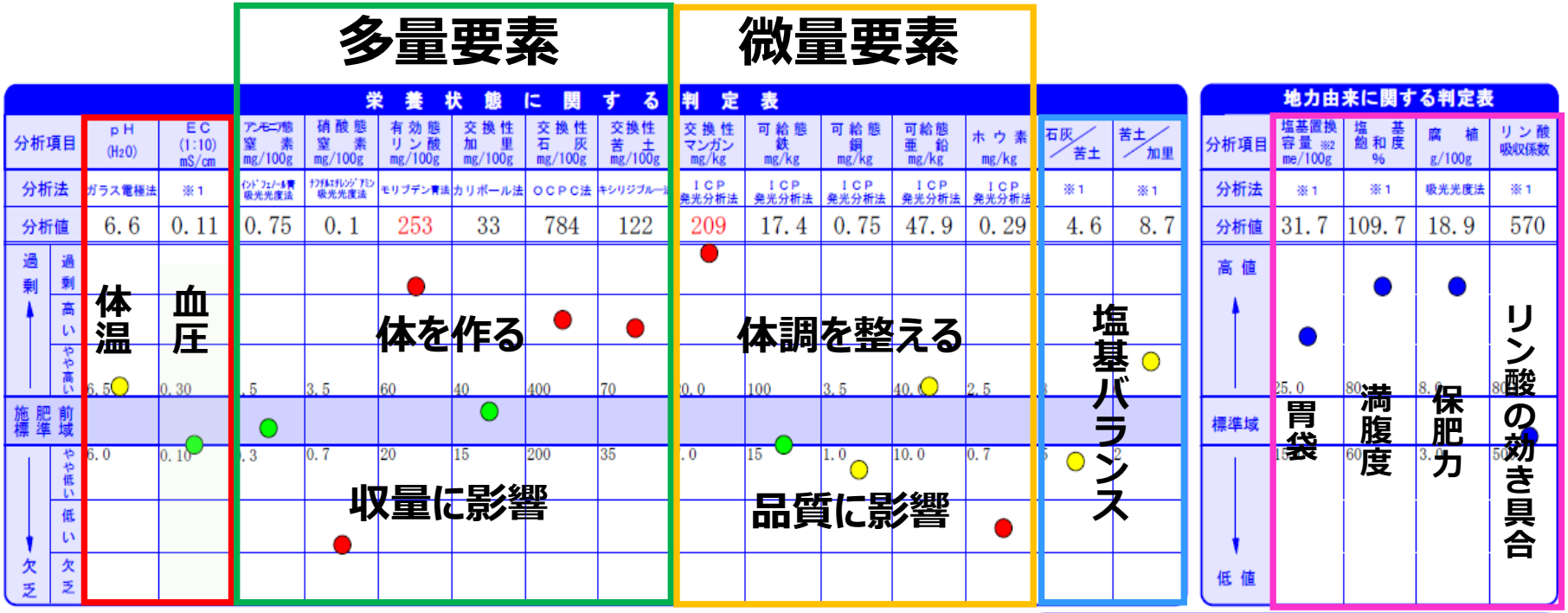
Copyright (c) 2023 Seikaken, Inc. All rights reserved.

神石高原 トマト 池田 様
土壌分析結果

株式会社 生科研　池本

土壌分析の見方

Copyright (c) 2023 Seikaken, Inc. All rights reserved.



診断メッセージ

＊本書の一部または全部を無断で複写、複製、転載することを禁じます。

本年度参考施肥設計（成分kg／10a）

施肥区分	窒素	リン酸	加里
元肥			
追肥			
合計			

N、P、Kの提案

上記参考施肥設計の基となる施肥量

施肥区分	窒素	リン酸	加里
元肥			
追肥			
合計			

肥料及び土づくり資材名

肥料及び土づくり資材名	包種・袋数	10a当り
完熟堆肥１ｔまたはユーキフルペレット	[20kg× 5袋]	100 kg

苦土、石灰、微量要素、土壌改良剤等の提案

お客様相談窓口 0120−376−831
平日 午前9時～午後5時（土日祝日・休業日を除く）
土壌診断・土づくり・商品のお問い合わせにご利用ください。
ホームページからもお問い合わせいただけます。
URL http://www.n-seikaken.co.jp

※1：土壌中の濃度証明に表だらない項目です。
※2：塩基置換容量は、交換性塩基の分析値などを用いて算出しています。

土壌分析の見方

Copyright (c) 2023 Seikaken, Inc. All rights reserved.

土の比重を水と同じ１と考えると、10ａ当たりの作土10ｃｍで100トンの土量となるので、33ｋｇの成分が存在することになる。

微量要素の単位は、ppmなので0.75は、75gの成分が存在することになる。

土 壌 に 関 す る 判 定 表

分析項目	pH (H2O)	EC (1:10) mS/cm	アンモニア態窒素 mg/100g	硝酸態窒素 mg/100g	有効リン酸 mg/100g	交換性石灰 mg/100g	交換性苦土 mg/100g	交換性マンガン mg/kg	可給態鉄 mg/kg	可給態銅 mg/kg	可給態 mg/kg	ホウ素 mg/kg	石灰／苦土	苦土／加里
分析法	ガラス電極法	※1	インドフェノール青吸光光度法	ナフチルエチレンジアミン吸光光度法	モリブデン青法	カリボール法	OCPC法	ICP発光分析法	ICP発光分析法	ICP発光分析法	ICP発光分析法	ICP発光分析法	※1	※1
分析値	6.6	0.11	0.75	0.1	253	33	784	122	209	17.4	0.75	47.9	0.29	4.6	8.7
過剰	過剰	アルカリ性	根傷み	貯金されている肥料									バランスの乱れ	
	高い													
	やや高い	6.5	0.30	1.5	3.5	60	40	400	70	20.0	100	3.5	40.0	2.5	8	6
施肥標準	前域	施肥前のスタートライン														
欠乏	やや低い	6.0	0.10	0.3	0.7	20	15	200	35	7.0	15	1.0	10.0	0.7	5	2
	低い	酸性		まだ足りていない肥料											バランスの乱れ	
	欠乏															

地力由来に関する判定表

分析項目	塩基置換容量 ※2 me/100g	塩基飽和度 %	腐植 g/100g	リン酸吸収係数
分析法	※1	※1	吸光光度法	※1
分析値	31.7	109.7	18.9	570
高値				
	25.0	80	8.0	800
標準域				
	15.0	60	3.0	500
低値				

診 断 メ ッ セ ー ジ

本年度参考施肥設計（成分kg／10a）

施肥区分	窒素	リン酸	加里
元肥 追肥			
合計			

上記参考施肥設計の基となる施肥量

施肥区分	窒素	リン酸	加里
元肥 追肥			
合計			

肥料及び土づくり資材名

肥料及び土づくり資材名	包種・袋数	10a当り
完熟堆肥１ｔまたはユーキフルペレット	[20kg× 5袋]	100 kg

お客様相談窓口 0120−376−831

平日 午前９時～午後５時（土日祝日・休業日を除く）

土壌診断・土づくり・商品のお問い合わせにご利用ください。
ホームページからもお問い合わせいただけます。

URL http://www.n-seikaken.co.jp

※1：土壌中の濃度証明にあたらない項目です。
※2：塩基置換容量は、交換性塩基の分析値などを用いて算出しています。

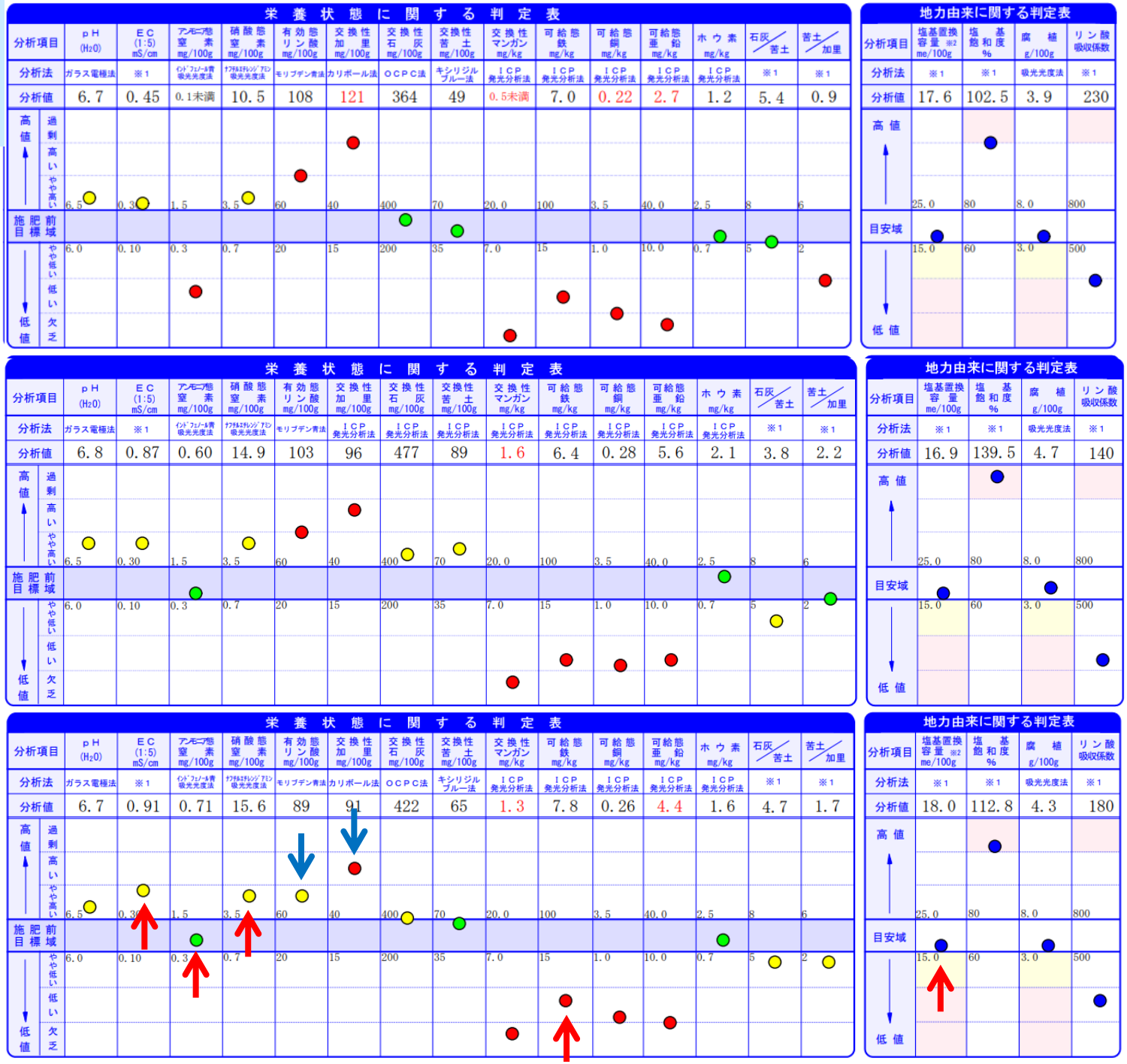
＊本書の一部または全部を無断で複写、複製、転載することを禁じます。

池田様の分析の推移

21年12月

22年11月

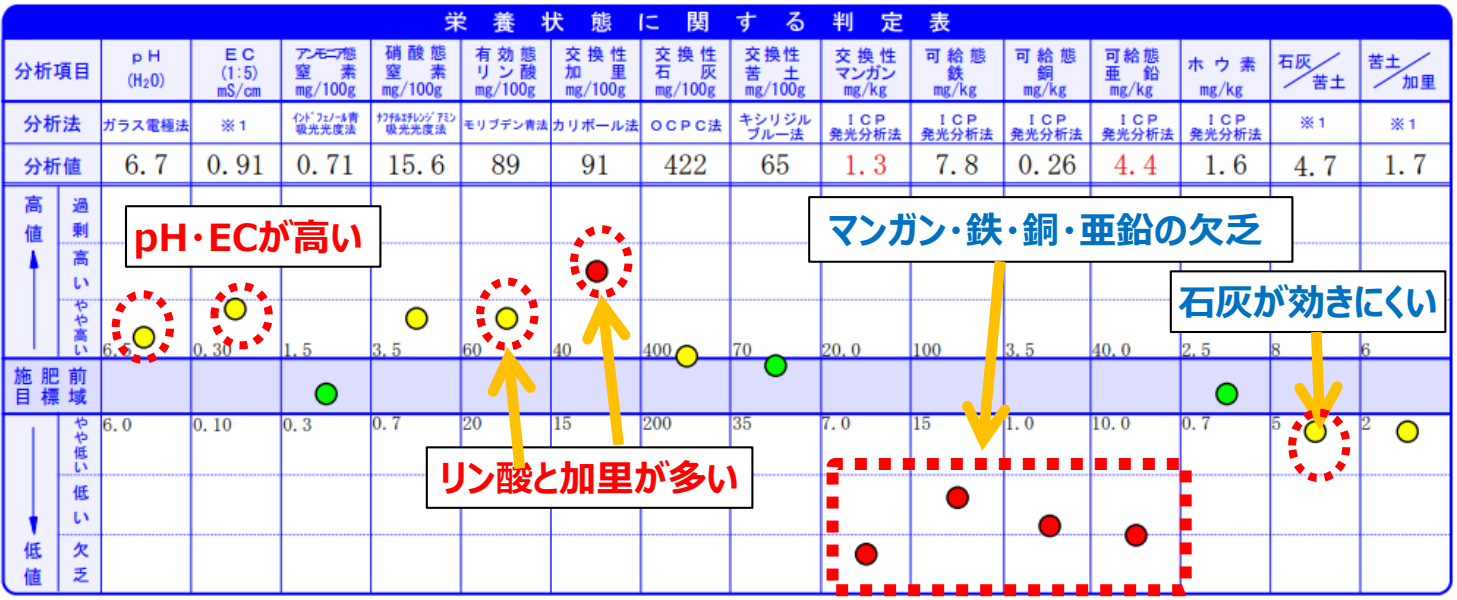
23年12月

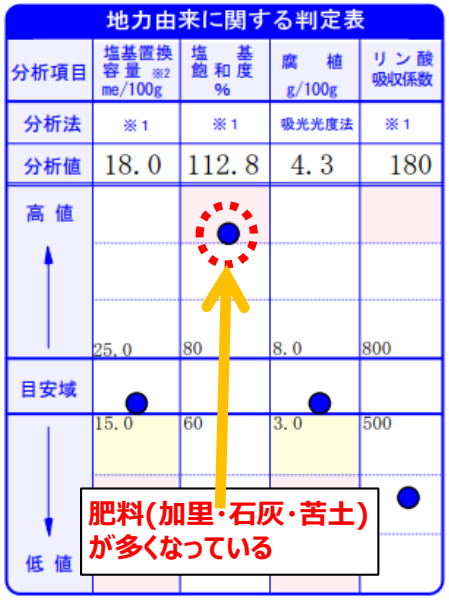


Copyright (c) 2023 Seikaken, Inc. All rights reserved.

土壌分析結果

Copyright (c) 2023 Seikaken, Inc. All rights reserved.





◆ **pHが高い** → pHが高いと微量要素の溶出が悪くなり、微量要素欠乏を引き起こす。

◆ **ECが高い、硝酸態窒素が多い**→根焼けや初期生育に注意が必要。

◆ **リン酸が多い**

リン酸が過剰になると土壌中の微量要素とくっ付いて微量要素欠乏を誘発する。また、土壌中の石灰ともくっ付いてカルシウム欠乏を助長することもある。

◆ **加里が多い(石灰が効きにくい)**

過剰になると塩基バランス(加里・石灰・苦土)が乱れ、塩基成分同士で吸収の阻害を起こして欠乏症状を誘発する。

◆ **微量要素欠乏（マンガン・鉄・銅・亜鉛）**

微量要素は作物の光合成などいろんな合成に関わっているため、特に作物の品質に大きく影響する。欠乏症の症状としては葉色が薄くなるといった症状や光合成の能力の低下する。

◆**塩基飽和度が高い**　保肥力以上に肥料が多い状態 ⇒ 肥料の流亡やpHの上昇に注意

土壌の傾向と対策

Copyright (c) 2023 Seikaken, Inc. All rights reserved.

・pHが高い

⇒ 元肥での石灰の施用はpHをさらに上昇させるため控え、葉面や液肥といった追肥での補給を行う。また、微量要素の欠乏が起こりやすため、定期的に微量要素の補給を行う。

★対策：石灰の補給は土壌中に残りにくい葉面(カルタス)や液肥(トーシンCa2号)などで補給を行う微量要素欠乏が起こりやすいため、葉面や液肥(メリットMやグリーンセーフ)で微量要素の補給を行う。

・ECが高い、硝酸態窒素が多い

★対策：硝酸態窒素は水に溶けやすいため、栽培終了後は雨に当てるか、水を流して土壌中の硝酸態窒素を減らす

・リン酸が多い

⇒元肥での施用はなるべく控え、土壌中のリン酸を吸収させてリン酸の量を減らしていく

★対策：リン酸の単肥の中止、堆肥由来の場合は堆肥の見直し
新チャンス液でリン酸を溶かし出して根に良く吸収させる
液肥や葉面散布(メリット赤、キッポ赤、トーシンPK等)等での追肥

土壌の傾向と対策

Copyright (c) 2023 Seikaken, Inc. All rights reserved.

・加里が多い、石灰が効きにくい

⇒土壌中に十分残っているため、元肥での施用は控える

★対策：追肥については液肥による補給がおススメ！
石灰についても土壌中に残りにくい葉面散布(カルタス)や液肥(トーシンCa2号)など追肥による補給がおススメ！

・微量要素欠乏（マンガン・鉄・銅・亜鉛）

⇒使用される量は微量であるが、作物の健全な生育や品質の向上に欠かせないものであるため欠乏している成分については補給が必要。

★対策： ｐHの調整・リン酸の減肥
圃場に合わせて ミネパワーS 30kg/10a 施用
定期的に液肥(メリットMやグリーンセーフ)でのミネラルの補給

・塩基飽和度の上昇

⇒腐植増強：地力、保肥力、緩衝力に関り、生育の安定感を向上させる

★対策：完熟堆肥　または ユーキフルペレット 200kg/反 の施用

・※土が硬い、水はけが悪い場合→団粒化して土をやわらかくする

★対策：キッポ団粒プラス　40kg/反の施用